

ハウスミカンにおける炭酸ガス施用技術の開発

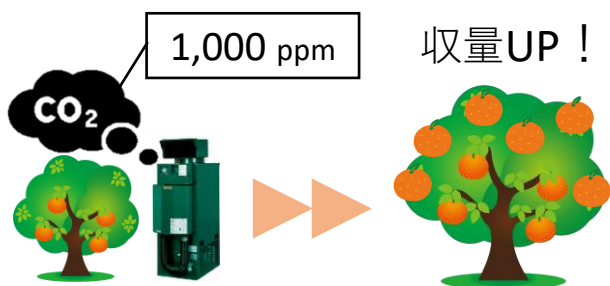
高知県農業技術センター果樹試験場 小原敬弘、杉本達哉、谷 大地

研究概要

ハウスミカンにおいて**1,000ppm**で炭酸ガスを施用することで、**高品質を維持**しつつ**収量を増加**できる可能性が示唆された。

また、炭酸ガス施用下における**適正な葉果比が明らか**となり、**「高品質・高収量」を両立できる**可能性が示唆された。

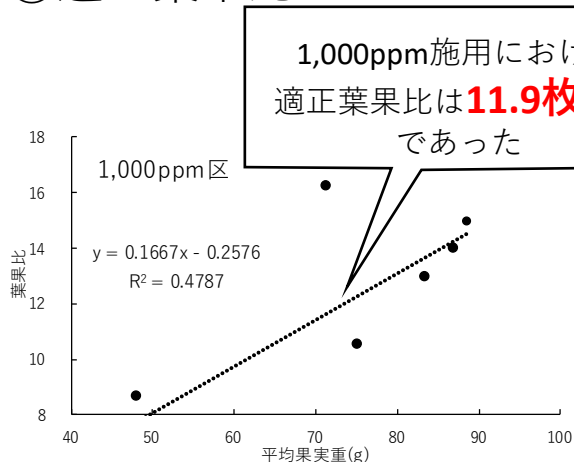
①炭酸ガス施用



600ppmより**1,000ppm**で施用することで**収量が増加した**

炭酸ガス濃度 (ppm)	果実重 (g)	果皮厚 (mm)	浮皮発生率(%)	糖度示度	クエン酸含量 (g/100g)	収量 (kg/樹)	収量 (個/樹)
2,000	70.7	2.2	35.6	13.5	0.58	41.4	594.7
1,000	71.0	2.0	36.7	13.3	0.62	42.8	520.7
600	73.3	2.1	34.5	13.1	0.67	39.1	528.0

②適正葉果比



S、M階級の平均果実重73gを適正果実重としてその時の葉果比を回帰式より算出

今後の展開

炭酸ガス施用下における最適な**施肥量・かん水量**についても明らかにするとともに、更なる増収(目標数値：6.0t/10a)を目指し、環境制御技術の体系化に取り組む。

